

『平成27年度 指導部の目標と6人制の重点指導項目』

J V A国内事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 審判員は、公平な立場で試合を運営し、ルールを正確に適用して選手・観衆の目線に立ったレフェリングを心がけ、バレーボールの魅力を十分に引き出せるような審判実践を行う。
- (2) 審判員は、試合以外の場面でも役員、選手に対してチームに積極的にルールの理解を図り、コミュニケーションをとって相互の信頼関係を築けるように努力する。
- (3) 審判技術の向上を目指すために日々の研鑽に努める。

2 重点指導項目

【主 審】

I ネットへの接触・ネット近くの選手の反則

規則11.3および規則11.4の改正点について理解し正確に適用する。

- (1) 今回のルールの大きな改正点であるタッチネットについての理解をする。
- (2) 上記に関わるプレーに対する妨害について理解する。

II 判定について

(1) ネット際の判定

① タッチネット

「選手がボールをプレーする動作中」を理解して判定をする。

- ・ボールをプレーする動作中とは、ネット近くの選手（ブロッカーも含む）が助走→踏み切り→ヒット（試みを含む）→着地まで一連の動作で両アンテナ間のネットに触れたときの反則である。
- ・両アンテナ間のサイドバンド・網目の部分・アンテナに触れても反則となる。

※主審がタイムリーに判定できるように今までより視野を大きくするように注意する。

※ブロッカーがアンテナに触れたときの判定が逆になってしまうことがある。ネットやアンテナにボールや選手が近づいてきたときは、起こりうる反則を整理し準備をして判定する。

② プレーに対する妨害

- ・「支持を得たり、身体を安定させるためにネットをつかうこと。」とはネットに寄りかかりながらトスを上げたりするようなプレー。
- ・「ネットに触れることにより相手チームに対して、自チームが有利な状況を不正につくり出すこと。」とは、サーブがネット上端近くを通過する際、ネットを下げてサーブの失敗を防ぐような行為。
- ・「相手チームによる正当なボールへの試みに対し、それを妨害する動作をすること。」とは、ネットに打ち込まれたボールを、相手チームがネット越しに故意に触れてプレーを妨害すること。
- ・「ネットをつかんだり、握ったりすること。」とはボールの位置に関係なく、故意にネットをつかんだり、握ったりすること。

③ ブロックの判定

ブロック時のキャッチで明らかなものは反則である。

ボールをつかんで投げるような動作は、キャッチの反則である。

④ オーバーネットの判定

ネット上に視点を置き、ボールと手の接点を見て判定する。

- ・ブロッカーのオーバーネットは、セッターがトスを上げる前、上げた後、または同時にブロックしたとき
- ・ブロッカーが相手のアタックヒットの前、またはそれと同時に、相手空間内にあるボールに触れたとき

- ・相手から返球されてくるボールを、明らかにオーバーネットして、アタックヒットを完了したとき
- ・自チームからのトスを明らかにオーバーネットして相手チームへ返球するとき
- ・相手コートから返球される1回目、2回目のボールで、明らかにネットを越えてこないボールを、プレーヤーの有無にかかわらず、オーバーネットしてブロック行為（3回目のボールはその限りではない）をしたとき

(2) バックプレーヤーの反則に関する判定

- ① サービスのホイッスル前に、ポジションの確認をして、反則が起きた瞬間にホイッスルをする。セッターとバックアタックするプレーヤーの位置を確認しておく。特にセッターがフォワードのときは注意して確認する。
近年では、バックアタックの攻撃が男女とも多様化され、センターからのバックアタックが多くなっているため判定の方法を研究する。
- ② セッターがバックの場合、フロントゾーンで、ネットより完全に高い位置でトスしたボールが、直接相手コートにかえるか、または相手方ブロックに当たったときは反則となる。

(3) ハンドリング基準の確立

- ① 指を用いた2回目、3回目オーバーハンド
- ② シングルハンドトスの判定。多くはキャッチの場合が多い。ただボールが回転したからと反にすべきではない。

【副 審】

I ネットへの接触・ネット近くの選手の反則

規則1 1. 3および規則1 1. 4の改正点について理解し正確に適用する。

- (1) 今回のルールの大きな改正点であるタッチネットについての理解をする。
- (2) 上記に関わるプレーに対する妨害について理解する。

II 判定について

(1) タッチネットの判定

- ① タッチネットについては、副審もホイッスルする。
- ② 網目の部分の反則になる場合を確実に目を残しホイッスルする。また、インタフェアーになる場合も主審同様に理解をし、主審の補佐をする。

※ 副審はネット際を判定する際、ネットとブロッカーの間に視点がくるような位置取りをする。

※ 副審は、視点をネット際に残して判定する。（早くボールを追い過ぎない）

(2) アンテナ付近の判定

ボールがアンテナに触れたのか、選手がアンテナに触れたのか、どちらのチームが反則になったのか正確に判定ができるようにする。

※ ボールの位置によって、アンテナのタッチネットの反則が起きることをあらかじめ予測をして位置取りを工夫する必要がある。

(3) 許容空間外側のボール通過の判定

ボールを取り戻す場合のアンテナ付近の判定及びアンテナ付近を通過して相手コートに入る場合の判定では、ボールから離れすぎないように位置取りをして正確に判定できるようにする。

(4) バックプレーヤー及びリベロの判定

主審を補佐してタイムリーにホイッスルできるように、ラリー中、バックプレーヤーやリベロの動きを視野に入れ判定できる位置取りを速くする。

- ・ローテーションを1周する間に攻撃パターンを頭に入れ（セッターがフォワードのときの攻撃パターン）、ブロッカーとアタックラインが視野に入る位置取りができるよう研究する。
- ・バックアタックがあるチームの場合は、あまり前後の動きを大きくしないように工夫する必要がある。

Ⅲ 試合中断の手続きについて

- (1) 選手交代
サブスティテューションの手順及び取扱いを十分理解し、スムーズに行えるようにする。
※ ピンチサーバーに関わる選手交代を要求した時に、リベロとリプレースメントした選手（被交代選手）がベンチやウォームアップエリア等にいる場合は、遅延の罰則を適用する。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト
 - ① タイムアウトとテクニカルタイムアウト中とその後：
 - ・中断の許可後、ベンチに下がるときにベンチ近くまで下がるようにコントロールし、モップラーがフロントゾーンを折り返すまで確認し、主審とアイコンタクトを取る。
 - ・記録が正確に記載されているか、また、中断の要求時のリベロの位置を確認する。
 - ・支柱を背にして両ベンチが見えるように立ち、中断終了前にコートに入らないようにコントロールする。（ユニフォームが出ている選手がいれば、入れるように注意する等）
 - ② タイムアウト後、コートに入ることが遅くなるような場合、ホイッスルとシグナルで促し繰り返す場合は何回もホイッスルして促さずに、遅延の罰則を適用するよう進言する。
 - ③ ゲームの流れを読み、チームの要求に速やかに対応する。
ワンラリー毎にベンチコントロールを行い、ブザーがあるときは、ブザーに頼り過ぎないようにする。
- (3) 最終セットのチェンジコート後、ラインアップシートで両チームのポジションを確認し、チェンジコート前の状態になっていることを、記録員と連携して確認する。タイムアウト、選手交代およびリベロのリプレースメントは、チェンジコート後すべてを確認した後、許可する。

【記録員】

規則 25. 2 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。

- (1) サービス順の確認、得点の確認をしながら、正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め、アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。（J V I Sがある場合は、その情報も参考にする）
- (2) サービス順の誤りが発生した時は競技を再開する際、副審に両チームの正しいポジションを正確に伝えられるようにする。
- (3) プロトコール中に、コートのチームメンバーを記録用紙で確認をする。
- (4) ブザーがある場合、セット間終了合図はブザーで合図する。
- (5) サブスティテューションは、タイミング良くブザーを鳴らし、落ち着いて記録する。
 - ① チームが複数の選手交代の要求をした場合は、最初に1度だけブザーを鳴らす。
 - ② 同時に両チームから選手交代の要求があった場合は、片方のチームの選手交代を完了させた後、再度ブザーを鳴らしてからもう一方のチームの選手交代を行う。
- (6) 最終結果 (RESULTS) の集計を素早く行う。（例：セット毎にメモ用紙に集計していく）
- (7) 記載ミスをした場合は、二重線で消す。主審と副審が確認したときに誤りがあったときは、記録員が修正する。

【アシスタントスコアラー】

規則 26. 2 の 責務を十分理解し、自身の責務を遂行する。
記録員と声を掛け合って、交代選手の番号や得点を確認し合う。

- (1) リベロのリプレースメントを正確に記録し、反則があった場合、ブザーを鳴らす。
- (2) タイムアウト、テクニカルタイムアウト中は、リベロの位置を副審に通告する。リベロ2人を持つチームの場合、リベロがコートにいるとき、番号も副審に通告する。
- (3) スコアボードの得点が正しいか確認する。
- (4) テクニカルタイムアウトの開始と終了を通告する。
※ 1分をオーバーしないようにする。
- (5) 予備の公式記録用紙を準備し、必要があれば記録員に渡す。

【ラインジャッジ】

- (1) 担当するラインの判定を確実に行う。ボールコンタクトは、確実に見えた場合に限りフラッグシグナルを示す。
- (2) アンテナに関わる判定方法やボールを取り戻す場合の判定方法を確認し試合に臨む。
- (3) 選手がアンテナに触れた場合、フラッグを振りその選手を指す。